

2024年度決算説明会

2025年5月13日

本日の出席者



伊藤 毅
代表取締役社長
兼 CEO

■ 発表
■ Q&A



中島 理恵
取締役
執行役員
COO

■ Q&A



越路 和朗
執行役員
CFO

■ 発表
■ Q&A



ピーター・サルスティグ
執行役員
チーフ メディカル オフィサー

■ Q&A

Agenda

- 01 Executive Summary P. 4
- 02 2024年度業績概要及び2025年度業績予想 P. 8
- 03 Appendix P. 16

高収益・高生産性体質の構築により、EPSは100円台 2026年度以降の成長基調回復に向けた施策も順調に進展

2024年度実績 	2期連続で 中期経営計画の 目標値を上回り着地	■ 売上収益：3,000億円（対前年-0.6%） ■ コア営業利益：594億円（同-5.4%）、営業利益：469億円（同+21.6%） ■ EPS：103.98円（同+43.2%）
2025年度予想 	後発品影響を受けるも 海外成長により安定的な EPSを確保	■ 売上収益：2,940億円（対前年-2.0%） ■ コア営業利益：540億円（同-9.1%）、営業利益：440億円（同-6.1%） ■ EPS：102.66円（同-1.3%） ■ ジクアスLXは、下半期中に出荷再開を想定
研究開発 	中長期成長をけん引する 開発品群が順調に進展	■ 近視進行抑制点眼剤を上市、眼瞼下垂治療薬を申請 ■ アレジオン¹クリームやCatiolanzeを上市、ROCK阻害剤の地域拡大 ■ 翼状片およびぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫治療薬を導入
株主還元 	自己株式取得と 累進配当による 株主還元	■ 2024年度：年間配当36円 371億円の自己株式取得を実施 ■ 2025年度：年間配当予想38円 350億円（上限）の自己株式取得を決議（2025/5/22～11/5）

2期連続で、2023-2025年度中期経営計画KPIを前倒し達成

KPI	2022年度	2023-2025年度 中期経営計画	2023年度	2024年度
売上収益	2,790億円	2,800億円	3,020億円	3,000億円
コア営業利益率 / 率	442億円 / 16%	560億円 / 20%	628億円 / 21%	594億円 / 20%
海外CFU一人当たり 売上高の成長率 ¹	-1% (19-22年度予想のCAGR) ²	7%以上の成長 (22予想-25年度目標のCAGR) ³	33% (YoY) ⁴	19% (22-24年度実績のCAGR) ⁵
コアROE	11%	13%	16 %	15%
ROE (IFRS) ⁶	-5%	-	9%	12%
コアEPSの成長率	-2% (19-22年度実績のCAGR) ²	10%以上 (22予想-25年度目標のCAGR) ³	+54% (YoY)	+23% (22-24年度実績のCAGR) ⁵
EPS (IFRS)	-38.60円	-	72.59円	103.98円
株主還元	配当32円/年 自社株買い257億円	32円/年を配当下限額 とし、増配を目指す +資本調整として 機動的な自社株買い	配当33円/年 自社株買い162億円 (総還元性向106%)	配当36円/年 自社株買い371億円 (総還元性向137%)

5 1 中国、アジア、EMEAの合計 2 2022年度予想為替レートで換算 3 中期経営計画レートで換算 4 2023年度のIkervis一過性要因除く
5 2024年度の導出に伴う一過性要因除く 6 参考値

近視・眼瞼下垂市場創出に向けたマイルストーンを順調に達成

既存疾患領域では、売上拡大に向けた剤形追加や地域拡大を成功確度高く実現

	臨床試験	申請	承認	上市
新規疾患領域 近視 眼瞼下垂 MGD ¹ 等	オキシメタゾリン塩酸塩 P3開始 STN1013800, Europe/China シロリムス 追加P2a開始 STN1010905, Japan AFDX0250BS P2a終了、開発中止 STN1013400, Japan	Ryjunea承認勧告受領 STN1012701, Europe オキシメタゾリン塩酸塩 STN1013800, Japan		リジュセアミニ (2025/4/21) STN1012700, Japan
既存疾患領域 緑内障 アレルギー性 結膜炎 等	オミデネパグ イソプロピル P3開始 STN1011702, China ネタルスジルメシル酸塩 P3長期試験完了 STN1013900, Japan *リバスジルに対する優越性確認済 ネタルスジルメシル酸塩 /ラタノプロスト P3試験開始 STN1014003, Japan	セペタプロスト STN1012600, Japan ラタノプロスト カチオニック乳化剤 STN1013001, Asia エピナスチン塩酸塩 (1日2回点眼) STN1014003, China	タプコム STN1011101, China	Catiolanze STN1013001, Europe Rhopressa STN1013900, Asia Rocklatan STN1014000, Asia エイベリスミニ STN1011702, Asia アレジオン ² 眼瞼クリーム STN1011402, Japan アレジオンLX STN1014001, Asia

近視進行抑制薬の欧州での上市や眼瞼下垂薬の日本での承認を予定 既存領域においても引き続き新製品を上市

	データリードアウト	申請	承認	上市
新規疾患領域 近視 眼瞼下垂 FECD ¹ MGD ² 等	オキシメタゾリン塩酸塩 P3 STN101 13 800, Europe シロリムス P2a STN101 09 04, US/France/India シロリムス 追加P2a STN101 09 05, Japan	アトロピン硫酸塩 STN101 12 700, Asia	オキシメタゾリン塩酸塩 STN101 13 800, Japan	Ryjunea STN101 12 701, Europe
既存疾患領域 緑内障 アレルギー性 結膜炎 春季カタル 等		ネタルスジルメシル酸塩 STN101 13 900, Japan エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム) STN101 11 402, Asia		セペタプロスト STN101 12 600, Japan タプコム STN101 11 101, China MicroShunt 11mm STN2000110, Europe Verkazia STN100 76 03, China

7 ここに明記してあるパイプラインは各パートナー企業と開示が合意されたもののみであり、予定されているすべてのパイプライン、開発地域が明示されているわけではありません。スケジュールは2025年3月31日時点で想定しているベストケースであり、上市を確約するものではありません。
 1 FECD: Fuchs Endothelial Corneal Dystrophy (フックス角膜内皮ジストロフィ) 2 MGD: Meibomian Gland Dysfunction (マイボーム腺機能不全)

	2023年度 通期実績	2024年度 通期実績
USD (円)	144.80	152.70
EUR (円)	156.88	163.57
CNY (円)	20.24	21.29

通期予想を上回る利益を確保しIFRSベースでは二桁増益

(単位：億円)	2023年度		2024年度				
	実績	対売上 収益比率	実績	対売上 収益比率	対前年同期 増減率	通期予想 (8/6)	対通期 予想比率
売上収益	3,020	-	3,000	-	-0.6%	3,020	99.3%
売上原価	1,231	41%	1,290	43%	+4.8%	1,290	100.0%
売上総利益	1,789	59%	1,710	57%	-4.4%	1,730	98.9%
販売費及び一般管理費	908	30%	875	29%	-3.6%	910	96.2%
研究開発費	253	8%	241	8%	-4.6%	270	89.3%
コア営業利益	628	21%	594	20%	-5.4%	550	108.0%
ノンコア費用	10	0%	4	0%	-58.2%	-	-
製品に係る無形資産償却費	95	3%	88	3%	-7.0%	88	100.1%
その他の収益	15	1%	6	0%	-61.9%	7	84.2%
その他の費用	153	5%	39	1%	-74.8%	24	160.6%
営業利益	385	13%	469	16%	+21.6%	445	105.3%
金融収益	16	1%	40	1%	+154.6%	20	200.1%
金融費用	27	1%	27	1%	+2.0%	15	181.1%
持分法による投資損失	76	3%	7	0%	-91.0%	-	-
税引前当期利益	299	10%	475	16%	+58.9%	450	105.5%
法人所得税費用	32	1%	116	4%	+266.7%	115	101.1%
(税負担率)	11%	-	25%	-	+13.9pt	26%	-
当期利益	267	9%	359	12%	+34.3%	335	107.0%
親会社帰属当期利益	266	9%	363	12%	+36.1%	325	111.6%
EPS (IFRS) 円	72.59	-	103.98	-	+43.2%	92.22	112.8%

主な前期比差異要因

売上収益：-0.6%

- 海外事業中心に成長
：前年同期比+8%、為替影響抜き+4%

売上総利益：-4.4%

- 地域/製品構成、及び、製品廃棄等により原価率が対前期比上昇

営業利益（コアベース）：-5.4%

- 販管費：為替影響はあるが前年比減少
- 研究開発費：臨床試験の状況、及び、費用最適化により対前年比減少

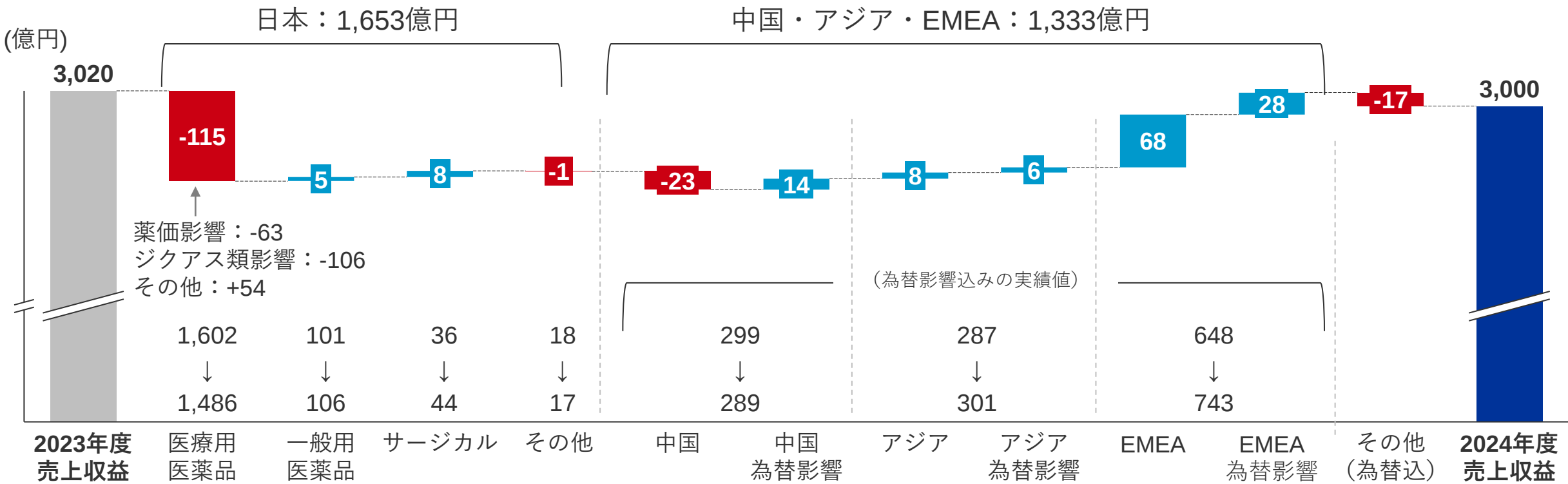
営業利益（IFRS）：+21.6%

- 構造改革は前年にほぼ完了。関連一過性費用は2024年度減少

当期利益（IFRS）：+34.3%

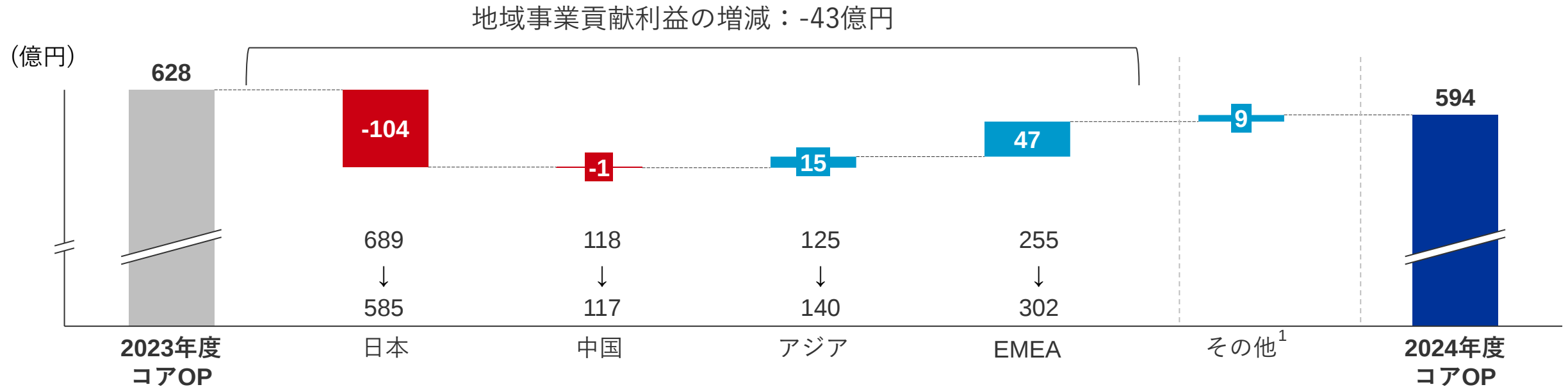
- 持分法投資損失：TTT¹の清算に伴う減損
- 一過性要因を除いた税率：24%

製品供給影響などの減収要因を、日本の他品目および
EMEAの一過性収益を含む堅調な推移によりカバーし前年水準



日本	対前年同期 -5.9%：6%台後半の薬価改定やジクアスLX、下期から開始の選定療養の影響。 (2024年度 薬価改定率 ジクアス：-32%、ヒアレイン0.1：-10%、タプロス：-27% 等)
中国	対前年同期 -3.1% (為替影響除外 -7.9%)：マルチチャネル品やタプロスを中心に堅調に推移も、ジクアスのVBP、及び製品供給 (対前年約-13億円) が影響
アジア	対前年同期 +5.0% (為替影響除外 +2.7%)：韓国医師ストライキや製品供給 (対前年約-4億円) 等が影響も、主要市場で緑内障やドライアイ製品が堅調に推移
EMEA	対前年同期 +14.8% (為替影響除外 +10.5%)：緑内障防腐剤フリー製品や新製品、ドライアイ製品の伸長に加え、導出による一過性収益も貢献

日本その他製品および、コスト最適化や一過性収益の貢献により ジクアスLX出荷停止の影響を一部吸収



地域事業 貢献利益の増減	日本	薬価改定影響：-63億円（2024年度 薬価改定率 ジクアス：-32%、ヒアレイン0.1：-10%、タプロス：-27% 等） ジクアスLXの出荷停止や回収費用等を含むジクアス類影響：-104億円 その他：他領域の堅調な推移や、販管費の抑制等（+64億円）
	海外（為替影響込み）	中国：ジクアスのVBP影響による利益率の低下や製品供給影響はあるが、前年同水準の利益を確保 アジア：製品供給影響等はあるが、増益を確保 EMEA：堅調な売上推移に加えて、導出による一過性収益も寄与
その他増減	為替による費用増加はあるが、構造改革の効果やコスト最適化で吸収し利益へ寄与	

¹⁰ 1 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門等の費用等、および上記以外の地域に関連する貢献利益。香港はアジアに含む

	2024年度 通期実績	2025年度 通期予想
USD (円)	152.70	145.00
EUR (円)	163.57	160.00
CNY (円)	21.29	20.50

海外事業の成長により安定的なEPSを見込む

(単位：億円)	2024年度		2025年度		
	実績	対売上 収益比率	予想	対売上 収益比率	対前期 増減率
売上収益	3,000	-	2,940	-	-2.0%
売上原価	1,290	43%	1,230	42%	-4.6%
売上総利益	1,710	57%	1,710	58%	-0.0%
販売費及び一般管理費	875	29%	920	31%	+5.1%
研究開発費	241	8%	250	9%	+3.7%
コア営業利益	594	20%	540	18%	-9.1%
ノンコア費用	4	0%	-	-	-100.0%
製品に係る無形資産償却費	88	3%	87	3%	-1.3%
その他の収益	6	0%	7	0%	+18.8%
その他の費用	39	1%	20	1%	-48.1%
営業利益	469	16%	440	15%	-6.1%
金融収益	40	1%	13	0%	-67.5%
金融費用	27	1%	14	0%	-48.5%
持分法による投資損失	7	0%	-	-	-100.0%
税引前当期利益	475	16%	439	15%	-7.5%
法人所得税費用	116	4%	104	4%	-10.6%
(税負担率)	25%	-	24%	-	-
当期利益	359	12%	335	11%	-6.6%
親会社帰属当期利益	363	12%	340	12%	-6.2%
ROE	12%		12%		
EPS (IFRS) 円	104	-	103	-	-1.3%

主な前期比差異要因

売上収益：-2.0%

- 海外事業：前年同期比+4%
(円高予想や前年度の一過性収益の反動によるマイナス影響含む。為替影響除いた成長率は中国+17%、アジア+13%、EMEA+2%)
- 日本は主力品に対する後発品上市の影響を最も受ける年度。
中期的に新製品をドライバーに成長軌道へ

売上総利益：-0.0%

- 地域/製品構成等により原価率が対前年比で改善

営業利益（コアベース）：-9.1%

- 販管費：最適化継続により中期的に30%以下に抑制
- 研究開発費：対前年同水準

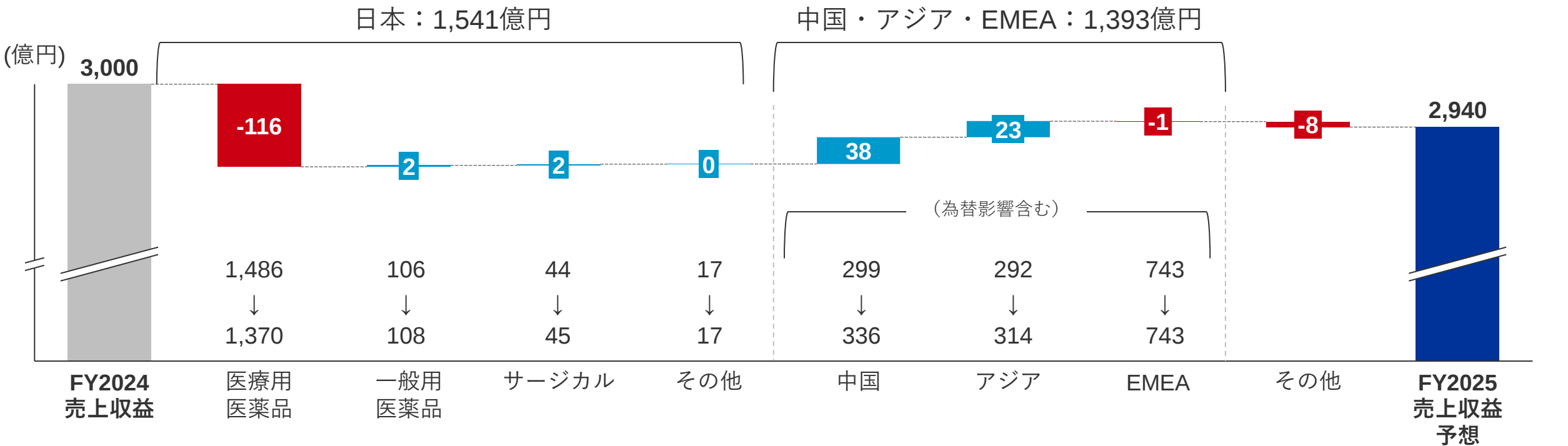
営業利益（IFRS）：-6.1%

- コア下項目は定常的な費用および収益を反映

当期利益（IFRS）：-6.6%

- EPSは安定的に確保（103円）

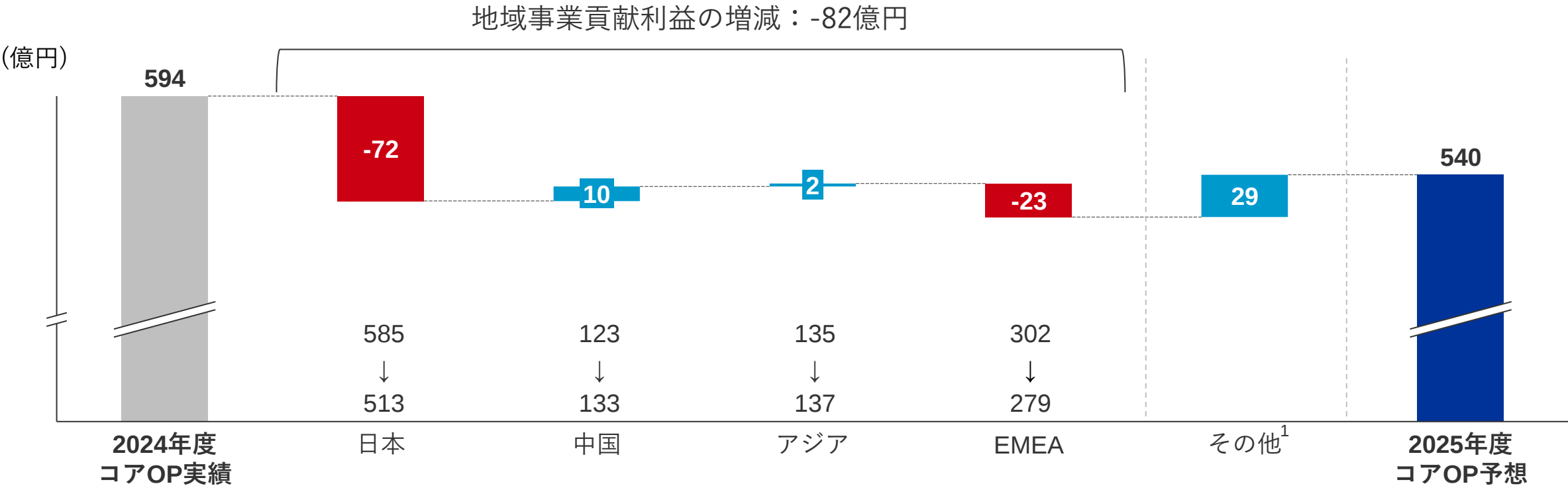
日本は減収だがリジュセアによる市場創出に注力し中長期成長の基盤を固める 海外事業は成長を加速



日本	対前年同期 -6.8%：リジュセアの上市やジクアスLXの出荷再開を見込むが、主要品の後発品影響や通期での選定療養影響を反映
中国	対前年同期 +12.6%（為替影響除外 +17%）：VBP影響や一部供給影響は想定するが、ベノキシールによる新たな価値提供を訴求
アジア	対前年同期 +7.8%（為替影響除外 +13%）：一部製品供給や韓国医師ストライキの継続は想定も、主要市場での緑内障やドライアイ製品の伸長を見込む
EMEA	対前年同期 -0.1%（為替影響除外 +2%）：緑内障防腐剤フリー製品や新製品、ドライアイ製品の伸長を見込む。前年度の導出影響を除き成長軌道を維持

12 ※顧客の所在地をもとに国または地域に分類。 EMEA：欧州・中東・アフリカ地域。
香港は2024年度・2025年度ともに中国に含み、アジアからは除く

日本の後発品影響や前年度一過性収益の反動はあるが、
事業活動含む生産性向上により影響を最小化



地域事業 貢献利益の増減	日本：後発品や通期での長期収載品の選定療養影響などによる売上収益および粗利益の減少 海外：インフレや為替影響（対前年比円高予想）による利益減少、EMEAにおける前年の一過性収益の反動 （成長率（為替影響除外）：中国 +8% (+12%)、アジア +1% (+8%)、EMEA -8% (-6%)
その他増減	コスト最適化および原価低減の取り組みによる費用の抑制

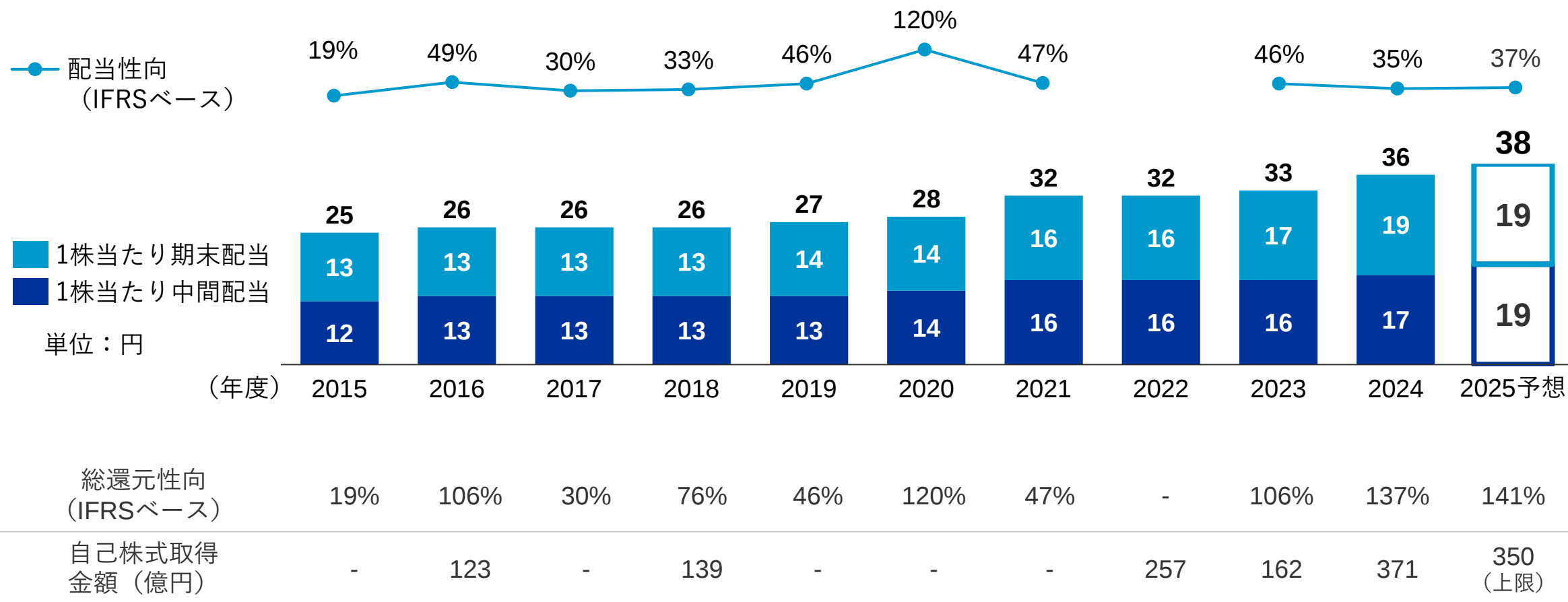
13 1 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門等の費用等、および上記以外の地域に関連する貢献利益
*香港は2024年度・2025年度ともに中国に含み、アジアからは除く

キャッシュ・フロー創出力及び健全なバランスシートに基づき 成長投資と株主還元を両立したキャッシュアロケーション計画

ストック + インフロー		アウトフロー		
使途		金額	考え方	
営業CF (研究開発費を除く) 800億円	成長投資 	設備投資	90億円	- 主に新製品を中心とした生産キャパシティ拡充に向けた工場・設備への投資 等 - シーズ探索・パイプライン/LCM製品開発への投資強化 - 海外市場リーディングポジション強化に資する資源獲得 - 短中期成長モメンタムの維持、地域製品の強化 - 長期的な成長の源泉を確保 - 強みが発揮できる差別化されたパイプラインの獲得 - 早期パイプライン/開発テーマの創出
		研究開発費	282億円 開発マイルストーン含む	
		事業開発投資	投資機会に応じて配分	
2024年度末現金 930億円	株主還元 	追加還元 (自社株買い)	5/22より自社株買い 350億円	2024年度：371億円、2025年度：11月5日まで350億円 - 事業開発機会や株価状況を鑑み機動的に実施
		配当	128億円 ¹	
	必要運転資金		450億円	現行38円/年を配当下限值として、利益成長に応じた累進配当を継続

14 1 自社株買いの影響を考慮

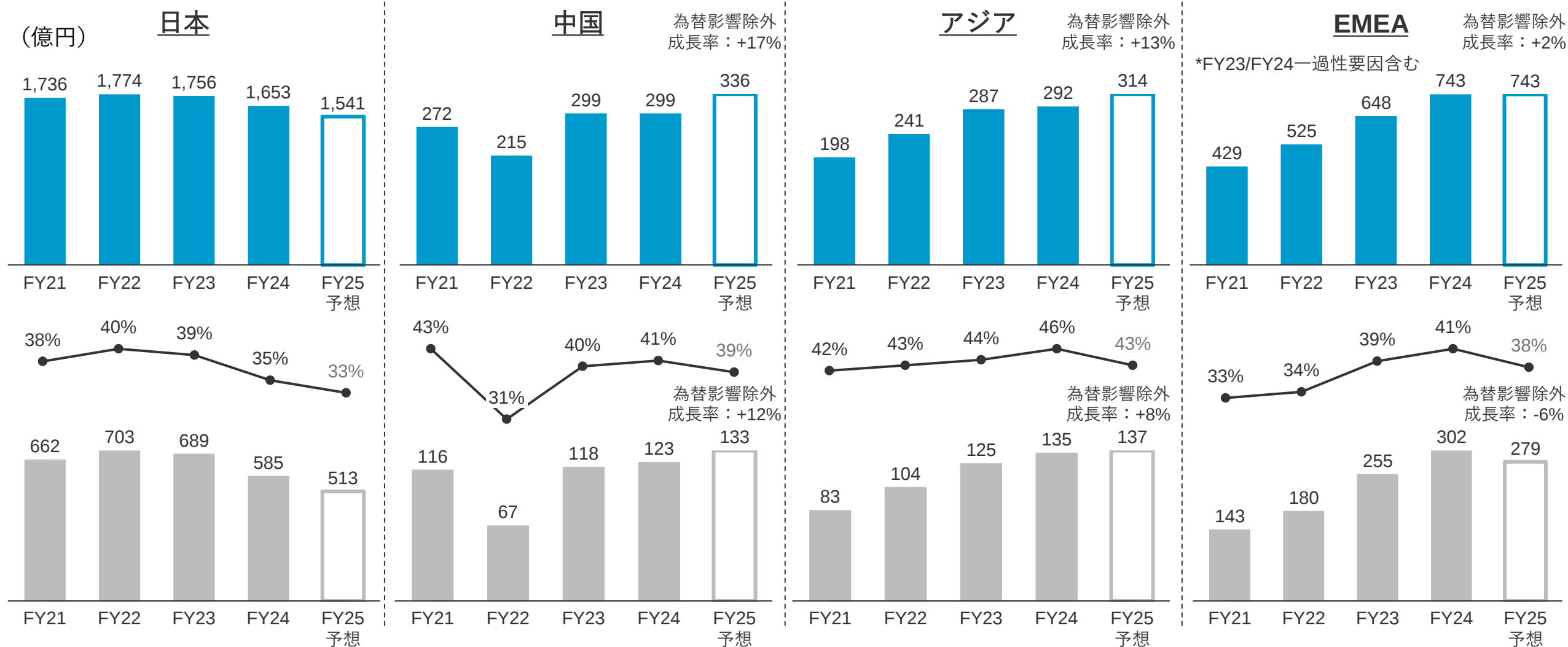
中長期的な収益見通しを勘案し、年間配当予想を1株当たり38円に増額 5月22日より350億円（上限）の自己株式取得を予定



Appendix

地域別売上収益・貢献利益

■ 売上収益 ■ 貢献利益 ● 貢献利益率

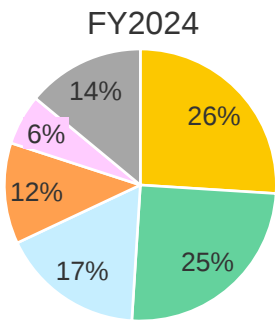


貢献利益：各地域の売上収益からその地域の売上原価および売上創出に関連する費用を控除したもの
 貢献利益の算出には各地域事業に直接貢献する売上収益を用いており、必ずしも仕向地別売上収益と一致していません。

2024年度仕向地域別売上収益

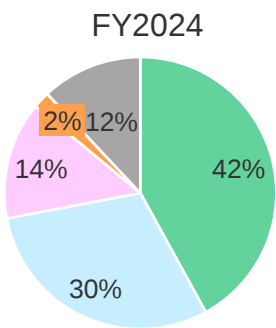
連結合計

YTD	FY2023 (参考)	FY2024
アイリーア 硝子体内注射液 ¹	727億円	781億円
アレジオン点眼液 ²	295億円	317億円
コソプト配合点眼液	256億円	268億円
その他	1,742億円	1,635億円
合計	3,020億円	3,000億円



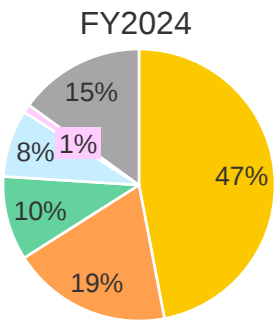
アジア

YTD	FY2023 (参考)	FY2024
コソプト配合点眼液	69億円	70億円
ヒアレイン点眼液	31億円	39億円
クラビット点眼液	32億円	30億円
その他	154億円	161億円
合計	287億円	301億円



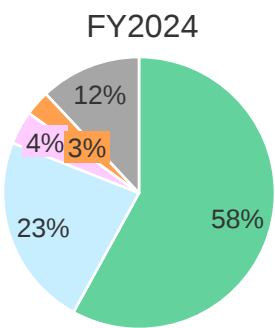
日本

YTD	FY2023 (参考)	FY2024
アイリーア 硝子体内注射液 ¹	727億円	781億円
アレジオン点眼液 ²	293億円	314億円
ジクアス点眼液 (ジクアスLX含む)	201億円	65億円
その他	535億円	494億円
合計	1,756億円	1,653億円



EMEA

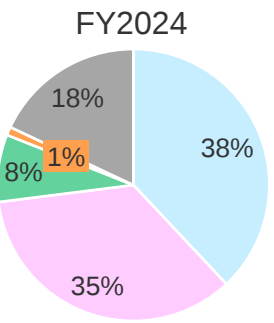
YTD	FY2023 (参考)	FY2024
コソプト配合点眼液	148億円	173億円
Ikervis	102億円	91億円
タプロス点眼液	84億円	83億円
その他	314億円	396億円
合計	648億円	743億円



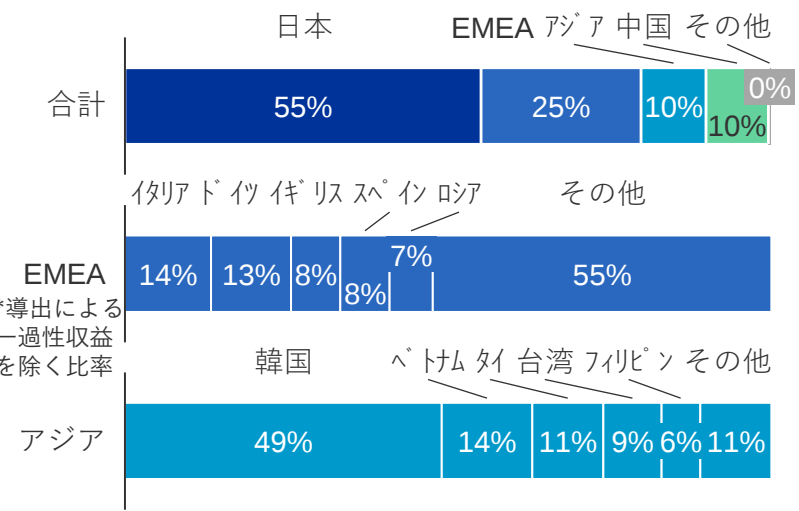
*導出による一過性収益を「その他」に含む

中国

YTD	FY2023 (参考)	FY2024
クラビット点眼液	88億円	84億円
ヒアレイン点眼液	88億円	83億円
ジクアス点眼液	33億円	25億円
その他	89億円	98億円
合計	299億円	289億円



主要国・地域別売上比率 (FY2024)



*香港はアジアに含む

© Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved.



18 1 製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品。アイリーア8mgを含む
2 アレジオン: 提携パートナーであるBoehringer Ingelheim KGの商標。アレジオンLX・アレジオン眼瞼クリーム・エピナスチン塩酸塩点眼液・エピナスチン塩酸塩LX点眼液を含む

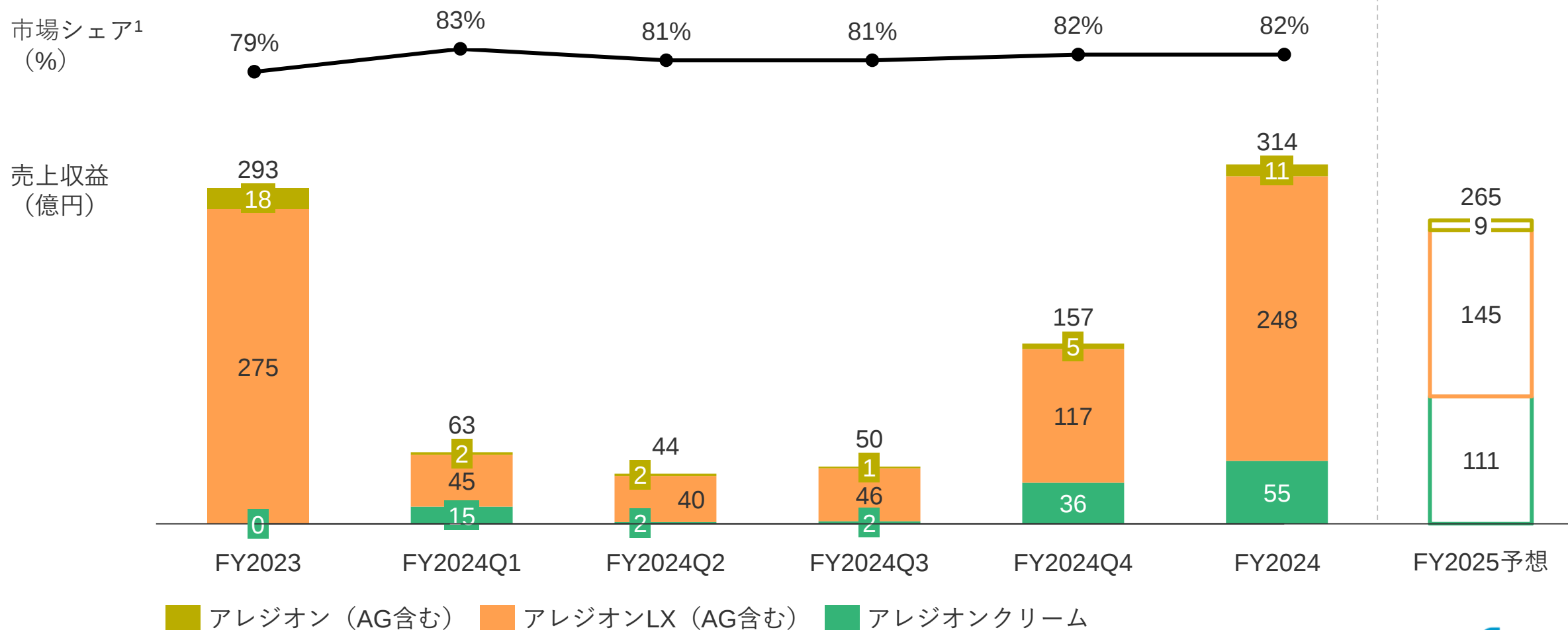
選定療養影響：対象品目の売上実績および2025年度予想

対象品目は17品目¹（濃度違い含む、2025年4月時点）
将来的にはジクアスやタプロス、タプコム、アレジオンLXなどの後発品が出ている品目も対象になることを想定（単位：百万円）

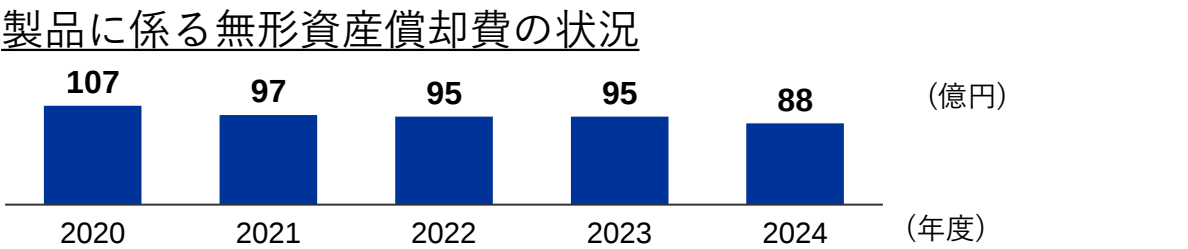
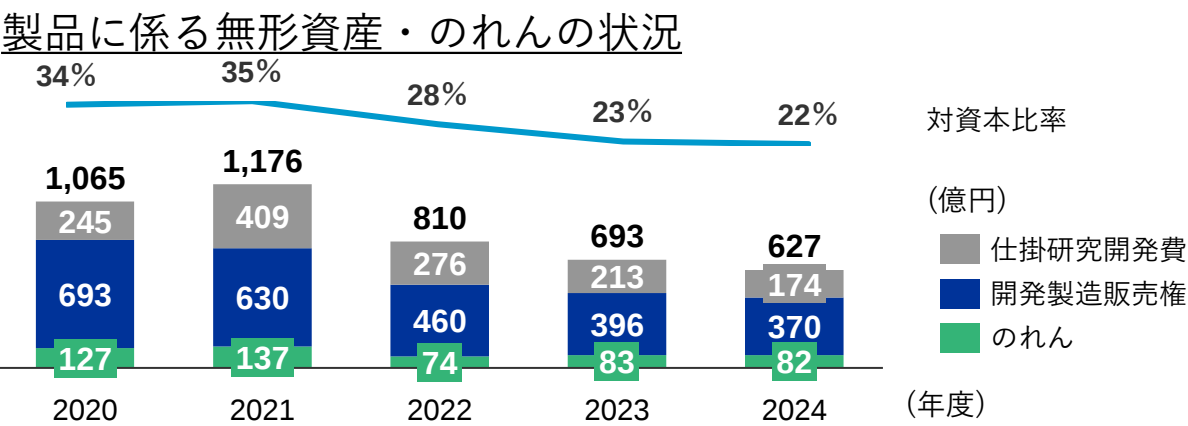
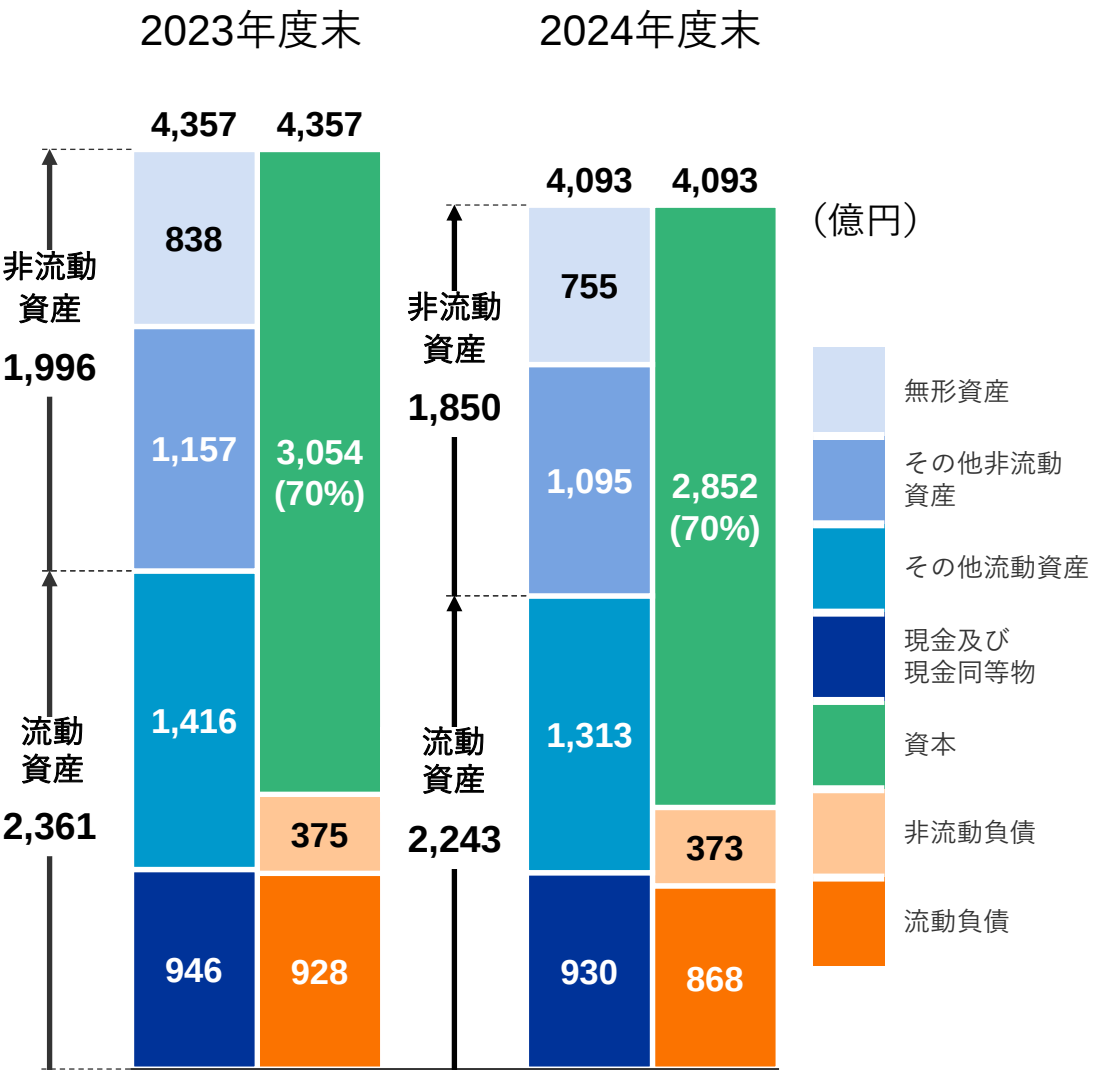
品目	領域	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2024 予想	FY2024 対予想比	FY2025 予想
コンプト ²	緑内障	5,047	4,039	3,347	2,395	2,111	113%	1,073
アレジオン（4回点眼）	アレルギー	4,440	2,987	1,807	889	786	113%	532
ヒアレイン0.1/0.3 ²	角膜/ドライアイ	5,800	4,949	4,268	3,848	3,590	107%	2,565
クラビット0.5/1.5	抗菌剤	1,754	1,285	1,126	679	674	101%	420
チモプトールXE 0.25/0.5	緑内障	3,092	2,807	2,445	1,516	1,550	98%	1,328
チモプトール0.25/0.5	緑内障							
アレギサル	アレルギー							
リボスチン	アレルギー							
フルメトロン0.1	その他							
サンテゾーン0.02/0.1	その他							
サンコバ	その他							
ミドリンM	その他							
合計		20,134	16,067	12,994	9,327	8,710	107%	5,918
日本事業合計		173,633	177,373	175,608	165,310	160,649	103%	154,109
対象品目比率		11.6%	9.1%	7.4%	5.6%	5.4%	-	3.8%

アレジオン類売上および市場シェア状況

2025年1月にアレジオンLXの後発品上市はあったが、引き続き高いプレゼンスを維持



財務健全性・安全性を維持。ROE、ROIC改善のため分母圧縮に取り組む

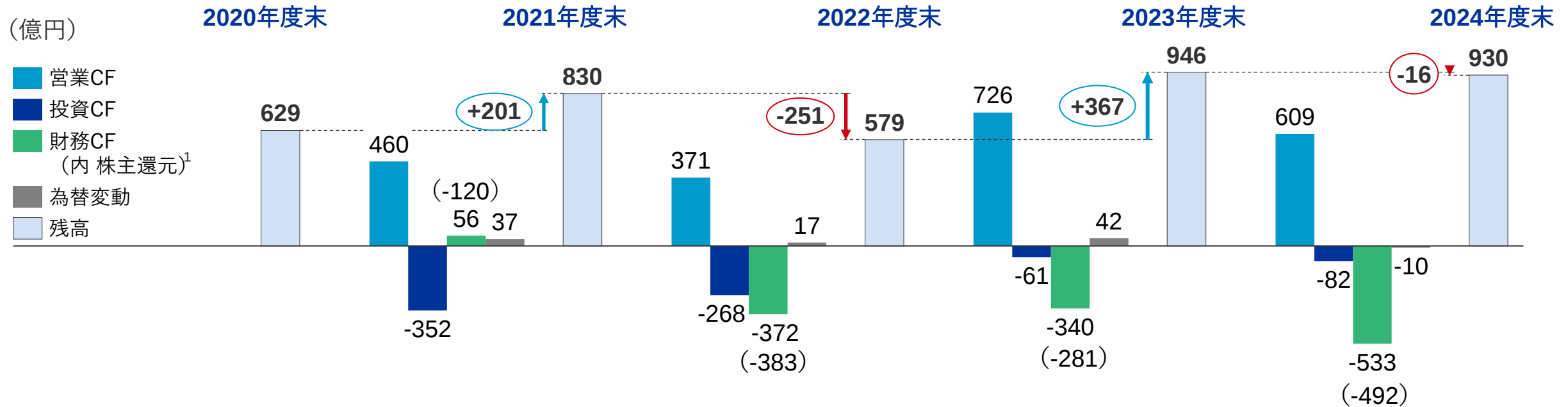


ROE・ROIC

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025 (予想)
ROE	3%	8%	-	9%	12%	12% ¹
ROIC	5%	12%	-	16%	18%	17% ²

21 1 自己株式の取得を含む 2 ファクタリングを含む

キャッシュ・フローの推移



2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

2024年度

FCF ² (億円)	150	102	126	620	499
EBITDA ³ (億円)	548	532	494	705	681
CCC ⁴ (日)	220	190	194	167	170
配当金 (億円)	112	120	126	119	121
自己株式取得 ⁵ (億円)	-	-	257	162	371

1 配当金の支払い額＋市場買い付けにより取得した自己株式の金額

2 フリーキャッシュ・フロー＝〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕－〔有形固定資産および無形資産の取得による支出〕で算出

3 EBITDA＝〔営業利益〕－〔その他の収益〕＋〔その他の費用〕＋〔減価償却費〕で算出

4 キャッシュ・コンバージョン・サイクル：売上債権、棚卸資産、事業関連費用の回転日数をベースに算出

5 市場買い付けにより取得した金額

外国為替レート前提と感応度

為替レート前提

(円)

	2023年度 通期実績	2024年度 通期実績	2024年度 vs 2023年度	2024年度 通期予想 (8/6)	2025年度 通期予想
USD	144.80	152.70	105.5%	155.00	145.00
EUR	156.88	163.57	104.3%	165.00	160.00
CNY	20.24	21.29	105.2%	21.30	20.50

為替感応度

2025年度業績予想における予想レート比1%円安時の影響

(億円)

	合計 ¹	USD	EUR	CNY
売上収益	+12	+0.2	+6.7	+3.3
コア営業利益	+1	-0.6	+0.7	+0.7
営業利益 (IFRS)	+1	-0.7	+0.5	+0.6

2024年度実績為替影響

(対前期レート)

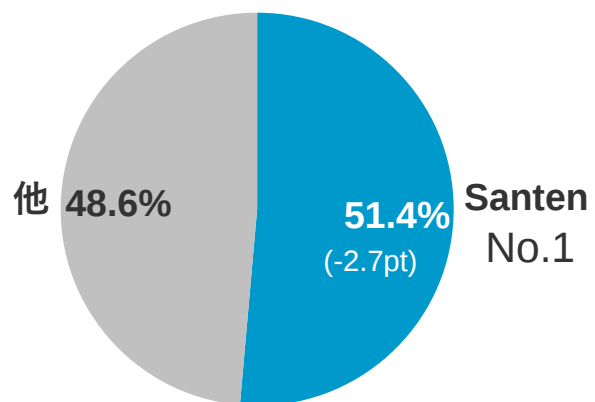
(億円)

	合計
売上収益	+50
コア営業利益	+4
営業利益 (IFRS)	+2

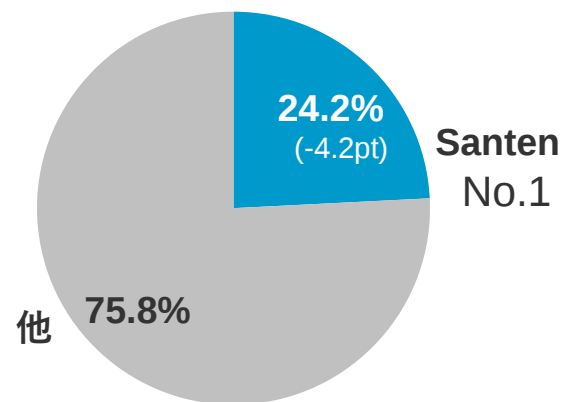
1 上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値（小数点以下四捨五入）

国内医療用眼科薬 市場概況 (2024年4月-2025年3月累計)

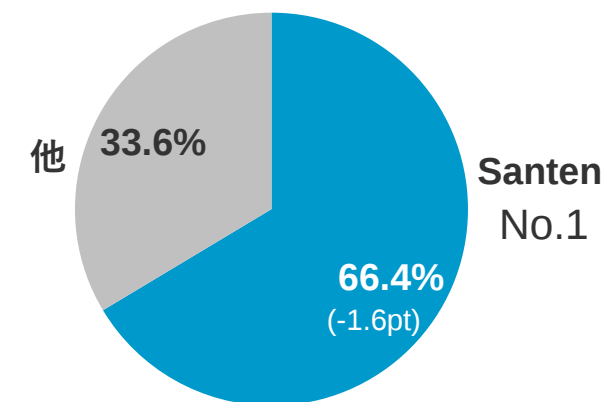
Total : 3,542億円



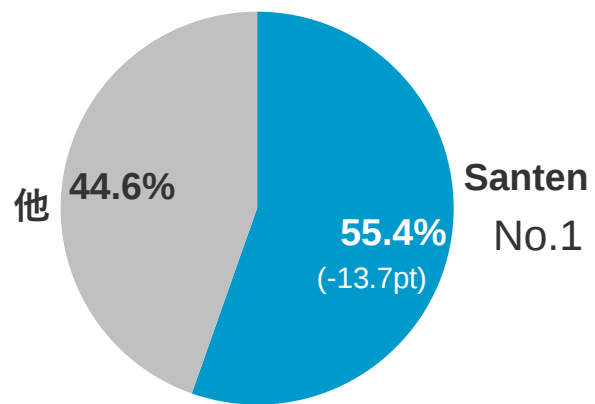
抗緑内障剤 : 786億円



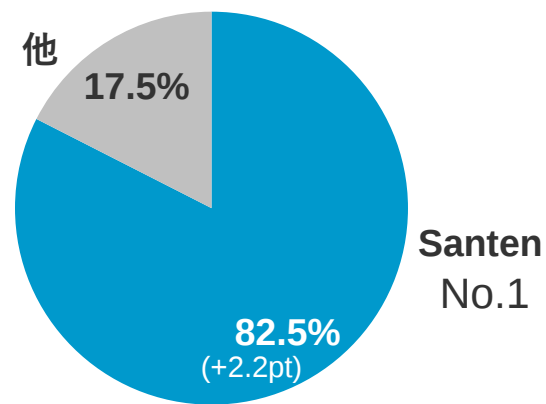
網膜疾患治療剤* : 1,433億円



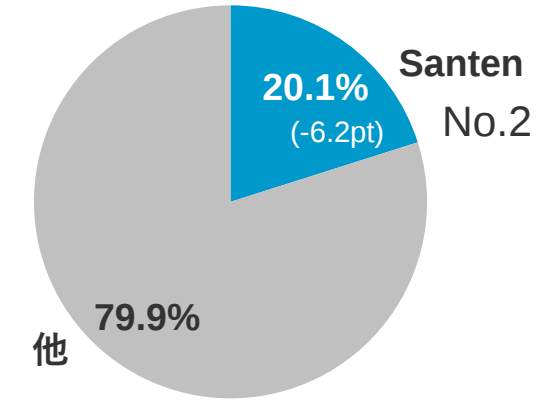
角膜疾患治療剤 : 293億円



抗アレルギー剤 : 472億円



抗菌点眼剤 : 56億円



*製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品（眼科用VEGF阻害剤「アイリニア」「アイリニア8mg」）を含む。販売会社（参天製薬）ベースでの実績。

出典：Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2023.4-2025.3を基に当社分析 無断転載禁止

2024年度第4四半期 R&Dアップデート

新規疾患領域

アトロピン硫酸塩 STN1012700/01 リジュセアミニ/Ryjunea	近視	日本で、 4月21日に上市 欧州で、欧州医薬品委員会より 承認勧告を受領
シロリムス（点眼剤） STN1010905	マイボーム腺 機能不全	日本での追加P2a試験で、 LPI¹
ニンテダニブ STN1014200	翼状片	日本での P2b試験準備を開始
AFDX0250BS STN1013400	近視	日本でのP2a試験データ解析の結果、開発中止を決定

既存疾患領域

ネタルスジルメシル酸塩/ラタノプロスト STN1014000/03 Rocklatan®/Roclanda®	緑内障	アジア（シンガポール）で、 上市 日本でのP3試験で、 FPI²
タフルプロスト・チモロールマレイン酸塩 STN1011101 タブコム、タブティコム	緑内障	中国で、 承認取得
エピナスチン塩酸塩（1日2回点眼） STN1011403	アレルギー性 結膜炎	中国で、 申請
エピナスチン塩酸塩（眼瞼クリーム） STN1011402	アレルギー性 結膜炎	アジアで、 申請準備を開始
オロダテロール塩酸塩 STN1014100	ドライアイ	日本での P2b試験準備を開始

グローバル開発の状況①

緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況 ¹	
緑内障	タフルプロスト・チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タプコム、タプティコム	STN10 11101 DE-111A	中国	現状：2025年3月 承認 計画：2025年度 上市
	オミデネパグ イソプロピル エイベリスミニ	STN10 11702	中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
	セペタプロスト	STN10 12600 DE-126	米国	現状：P2（主要評価項目達成）
			日本	現状：申請 計画：2025年度 承認
			欧州	現状：P2（探索的試験）終了
	ラタノプロスト Catiolanze	STN10 13001 DE-130A Catioprost	欧州	現状：上市
			アジア	現状：申請 計画：2026年度 承認

1 試験プロトコールが社内承認されたもののみ記載。

グローバル開発の状況②

緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	ネタルスジル メシル酸塩 Rhopressa®/Rhokiinsa®	STN1013900 AR-13324	日本	現状：P3（ピボタル試験で主要評価項目達成、長期安全性および有効性も確認） 計画：2025年度 申請
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：上市
	ネタルスジル メシル酸塩 / ラタノプロスト (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	STN1014003	日本	現状：2025年2月 P3開始 計画：2027年度 P3終了
		STN1014000 PG-324	欧州	現状：上市
			アジア	現状：2025年3月 シンガポールで上市

グローバル開発の状況③

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果 一般名など 開発コード			臨床開発の状況	
春季カタル	シクロスポリン Verkazia	STN1007603 DE-076C	中国	現状：承認 計画：2025年度 上市
ドライアイ	ジクアホソル ナトリウム (持続製剤) ジクアスLX	STN1008903 DE-089C	日本	現状：上市
	オロダテロール 塩酸塩	STN1014100	アジア	現状：韓国で2024年3月に承認を取得したが、2024年8月取下げ
フックス 角膜内皮 ジストロフィ	シロリムス (点眼剤)	STN1010904 ¹	日本	現状：P1/2a（主要評価項目達成） 計画：2025年度 P2b開始
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	STN1010905	米国 フランス インド	現状：P2a 計画：2025年度 P2a終了
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)	STN1011402	日本	現状：追加P2a 計画：2025年度 追加P2a終了
	エピナスチン塩酸塩 (1日2回点眼)	STN1011403	日本	現状：上市
			アジア	計画：2025年度 申請
			中国	現状：2025年3月 申請 計画：2026年度 承認

1 当該プログラムはSantenが独占的实施権の行使オプションを保有。本プロジェクトコードは、第Ⅱ相臨床試験終了時にSantenが独占的实施権を獲得した後に附番予定のコードです。
28 © Santen Pharmaceutical Co., Ltd. All rights reserved. 

(2025年4月現在)
青字は更新情報

グローバル開発の状況④

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
翼状片	ニンテダニブ	STN101 4200 CBT-001	日本	計画：2025年度 P2b開始

屈折異常領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
近視	アトロピン硫酸塩 リジュセアミニ、Ryjunea	STN101 2700 DE-127	日本	現状：2025年4月 上市
			中国	現状：P2/3 計画：2026年度 P2/3終了
			アジア	現状：P2（主要評価項目達成） 計画：2025年度 申請
		STN101 2701 SYD-101	欧州	現状：申請（欧州医薬品委員会より承認勧告を受領） 計画：2025年度 承認

AFDX0250BS（STN101**3400**）は、近視を対象とした日本でのP2a試験データ解析の結果、開発を中止しました。

グローバル開発の状況⑤

その他の領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩	STN1013800 RVL-1201	日本	現状：申請 計画：2025年度 承認
			欧州	現状：P3 計画：2025年度 P3終了
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	計画：2026年度 申請
網膜色素変性症	jCell	STN6000100	—	現状：jCyte社P3試験計画策定中

重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

